

令和6年11月 20日

(2024年)

保護者の皆様

吹田市立山田第二小学校

校長 熊野 厚博

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

- ・ほとんどの項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
- ・基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

#### ●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

##### ◎「知識及び技能」

漢字を書き直したり話し方を変えた理由を選択するなどの、言葉の特徴や使い方に関する問題や情報の扱い方に関する問題においては、全国値を上回っている。また我が国の言語文化に関する問題についても全国値をやや上回っている。全体的に「知識及び技能」については全国値を上回っている。

## ◎「思考力、判断力、表現力等」

「話すこと・書くこと」「書くこと」「読むこと」の領域に関しても、全国値を上回っている。特に、適切な説明を選択したり、心に残った理由を書くなどの「読むこと」領域に関してその傾向が顕著である。全体的に「思考力、判断力、表現力等」については、全国値を上回っている。

## ●国語における成果と指導改善のポイント

14問中11問で全国値を上回ったので、今後も継続していきたい。特に漢字を書く力と、物語の何に着目したかについて説明する問題においてその傾向が顕著であるので、今後も継続していきたい。しかしながら主語を選択したり、取材メモを基に書く力には課題が残るので、今後はメモを用いた書く活動を積極的に取り入れていく。

## ●算数《概要》

- ・ほとんどの項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
- ・基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

## ●算数《各領域における成果と課題》

### ◎「数と計算」領域

対象問題6問の平均正答率が全国値を上回っている。ある数を□として考える問題では、90%以上の正答率であった。数量の関係を、□を用いた式に表すことができる力が高いことがうかがえる。また、基本的な四則計算はできている。

### ◎「図形」領域

対象問題4問の平均正答率が全国値を近く上回っている。しかし、球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉える問題では、正答率が55%と課題が見られる結果となった。

### ◎「測定」領域

今年度は、「測定」領域の問題は実施されなかった。

### ◎「変化と関係」領域

対象問題3問の平均正答率が全国値を上回っている。しかし、理由を記述する問題では、正答率44%だったことから課題が見られる結果となった。

### ◎「データの活用」領域

対象問題4問の平均正答率が全国値を上回っている。円グラフから、割合を読み取って書く問題では、85%以上の正答率があった。このことから、グラフの特徴を理解し、割合を読み取る力が身につけていると考えられる。

## ●算数における成果と指導改善のポイント

14問中13問で全国値を上回っている。算数への関心・意欲・態度は比較的高く、出題された学習内容についても基礎的なことについてはおおむね理解し、答えることができている。しかし、言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られたので、記述のある問題を解く機会を増やしたい。また、ふりかえりやまとめを自分の言葉で書く時間も確保していきたい。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【規則正しい生活習慣】

「朝食を毎日食べていますか」では、肯定意見が全国平均をやや上回っているが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では、全国値をやや下回っている。睡眠に関しては規則正しい生活習慣を心がけていく必要がある。

### 【自己肯定感】

「自分には、よいところがあると思いますか」という項目では、多くの児童が肯定しており、全国値と比べても上回っている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目や「人が困っているときは、進んで助けますか」の項目ではどちらも約90%の児童が肯定しており、いじめは許されないことや、友だちを大切にしようと思う気持ちが持っていると考えられる。しかし、全国平均値と比べるとやや下回る値である。「学校に行くのは楽しいですか。」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目ではどちらも全国平均値を上回る肯定意見が出ていて、児童が安心して学校に通う環境ができてきていることがうかがえる。

### 【家庭生活の様子・家庭学習】

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という項目に対しては、「3時間以上」「2時間以上」と答えた児童が全国平均値を上回っている。その反面、「30分より少ない」「全くしない」という割合も全国平均値を上回っている。学校以外での学習習慣は各家庭、児童によって大きく異なることがうかがえる。

## 【学校生活・授業】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目では、88%以上の児童が肯定している。しかし、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」では、肯定意見が全国平均値を下回る。児童が自分の考えを安心して表現できる場を設定し、有意義な学校生活を送ることができるように継続的に授業改善を行っていききたい。

「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という項目では、週3回以上と答えた児童は全国値を下回っていた。今後も積極的に授業で活用していく必要がある。

国語科の、「国語の勉強は好きですか」という項目では、肯定的な意見が全国平均値を大きく上回る。「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という項目では、85%の児童が肯定的に答えており、意欲的に学習に取り組む様子がうかがえる。

「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題をどのように解答しましたか」という項目では、「全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した」の解答が全国値を上回った結果となった。ただし、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。」の項目は、肯定的な意見がやや全国平均値を下回っていた。今後も授業の中で、話し方や書き方の見本を示したり、文章の構成や書き方を工夫した点について交流したり助言しあったりする活動などを通して、学習の向上に努めていきたい。

算数科の、「算数の勉強は好きですか」という項目には、肯定的な意見が全国平均値を上回っていた。しかし、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という項目では、全国平均値を下回っていた。算数の学習が生活のどのような場面で活用できるか、考える機会を持たせていきたい。「算数の授業の内容はよく分かりますか」という項目に対して、89%以上の児童が肯定している。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という項目には約82%以上が肯定的な回答で意欲的に取り組んでいる様子がうかがえる。引き続き、算数科において多角的な考え方ができるよう授業の向上に努めていきたい。